

「つどい・まなび・つなぐ」  
豊かな活動を願って」

小諸市教育委員会  
教育長 柳沢 恵二

市民の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、様々な形で公民館活動に関わっていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

人生八十年時代の今日では社会が複雑・多様化したことにより、社会生活を送っていく上で、学校教育終了後も絶えず新たな知識・技術を習得していく必要性を感じている方々が多く、豊かで充実した人生を送るためには生涯学習に取り組むことが不可欠となつてきています。

また、人々は学習することで新しい可能性を見つけ、新たな自己を発見する喜びを体験することもでき、自らを豊かにすることもできます。

小諸市公民館では、本年も市民の皆様に、楽しく集い、豊かな学びを得、連携を強めていただきたい。この願いの実現のために、公民館活動の原点を見つめ直し、皆様のニーズや地域の抱える様々な課

題に対応すべく、各種学級・講座を開催いたします。

公民館のあるべき姿を次のように考え、市民の皆様との生涯学習をご支援しています。

一、集会と活用「つどい」

— 地域社会に根ざす —  
地域の社会生活は、集会活動をとおして向上する。

二、学習と創造「まなび」

— 生活文化を高める —  
学習の場をととのえ、豊かな教材を提供し、教育・文化活動を展開するのが公民館の重要な役割である。

● 市民の皆様継続的な学習活動は、各種の学級・講座等によって動機づけられ、促進され、かつ充実される。

そして、さらに自主的な学習によって深められ、進められる。

三、総合と調整「つなぐ」

— 地域連携を強める —  
地域社会における課題といかにして総合的に取り組むか。公民館の高次の役割。

小諸市の公民館活動のこれまで以上の活性化を図るため

市民の皆様方のご参加とご協力を宜しくお願い致します。



地域づくりのための「学びの場」

小諸市公民館  
館長 松本 文一

市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より公民館活動に対しご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

公民館は戦後間もない昭和二十一年に、地域振興を図るための中核的な拠点として構想されましたが、それは民主主義の理念や豊かな教養を身につけるとともに、地域の生活を豊かにするためでもありました。そして近年、再び地域づくりの拠点としての役割が注目されています。

少子高齢化に伴う諸問題は地域づくりとも関わって多くの地区に共通する課題です。

そこで、今年度の第二回公民館関係役員研修会では、地域ケア総合研究所長の竹重俊文さんにそんな点からご講演いただきました。その中で「障がいを持って、高齢になっても、住みなれた地域で暮らし続けることができる。そんな地域を、住民自らできることから始めましょう。国や県・市町村が主導ではなく、私たち自身で確保していきましよう。」というメッセージをいただきました。また、自らの実践を通しての「どんな計画でも、全員が賛成ということとは少なく、賛成の人もいれば反対の人もいる。まずは賛同する人だけで始めればよい。」というお話にはハッとさせられました。

地域づくり・地域の活性化に成功している実践の中には最初から地域住民全員の合意のもとに始まったものではなく、一部の人達で始めたものがだんだんと賛同者が増え、地域全体の取り組みとなつていく例が多くあります。

公民館活動において、より多くの賛成を得て一つにまとめていくことは大切なことです。しかし、学習での話し合いは、討議の末何かを決める、

全員を一つにまとめることが必ずしも要求されるとは限りません。場合によっては、いろんな考えが出たり、賛成・反対と騒然となつたりすることもありますが、まずは生活課題について個々の考えを出し合える場を設けスタートすることが大切なのではないでしょうか。

ああでもない、こうでもないと言いつつ中からアイデアと活動のエネルギーが生まれてくるような「学びの場」を多くの地区で設けていただきますようお願いいたします。小諸市公民館もそのお手伝いができるよう努めてまいります。

